

クロンシュタット・イズヴェスチャ

一号 一九二一年 三月三日

二号 一九二一年 三月四日

三号 一九二一年 三月五日

La Commune de
Cronstadt
— Cronstadt
Izvestias —
Délibaste 1969

吉原 文明・訳

イズヴェスチャ 一号

一九二一年 三月三日 木曜日

“クロンシュタットの街と皆の人民へ”

同志諸君、ならびに市民の皆さんへ”

われわれは、現在困難な時期にさしかかっている。ここ三年来、われわれは飢え、寒さ、そして貧困に打ちひしがれてきた。国を統治している共産党は、みずから人民大衆を裏切り、混沌から国家を救い出すすべての可能性を放棄し、みずからその無力さを暴露した。まさに、共産党が先頃ペトログラードやモスクワで起つた、労働者、農民たちの不満を無視したことは、党が人民の信頼を完全に失つたことをはっきりと露呈し、同じく党は、労働者に

よって提出された要求事項をも、反革命的な陰謀であるとして無視した。

“党はとんでもない間違いを犯している。この動乱は、人民大衆の正当なる行為である。これらの要求事項は、人民大衆の素朴な声であると共に、すべての働く人民によって作成されたものである。今日、すべての労働者、水兵及び兵士たちは、とりわけ集団による努力と働く者たちの意志のみが、この国にパン、樹木、石炭を与え、裸の者には衣服を与え、共和国をその陥っている苦境から救出できる唯一の道だと、はっきりと認識している。

労働者、水兵及び赤軍兵士等の結束した意志は、三月一日火曜日のわれわれの市の駐屯部隊の会合に於いて、はっきりと表明さ

れた。この会合は、満場一致で第一及び第二分艦隊の決議を承諾した。この決議のなかで、ソヴィエトの直接再選挙と、より公平な根拠に基づく選挙制の設立を表記した。そしてその結果、すべての働く者が本当に代表され、ソヴィエトが活動的、かつ精力的な機関になるよう。

三月二日、労働者、赤軍兵士、そしてすべての水兵組合の代表者が、元クロンシュタット機関学校の教育省に集結した。これらの代表者たちは、ソヴィエトの政体を平和的に再編成することを目的とした、新しい選挙制の骨子を練ることを決定した。だが、考えられるすべての圧迫（政府権力の代行者たちによって発言された威嚇等）に備える為に、われわれは市や砦を管理することを委任された、臨時革命委員会を設けることを決定した。そして臨時革命委員会は、巡洋艦ベトロバウロフスクに拠を置いた。

同志諸君、ならびに市民の皆さん、
臨時革命委員会の真の目的は、流血の惨事を避けることであり、委員会は市で、皆で、要塞で、革命の秩序を維持する為に、最善な方法として厳格な規制をひいてきた。

同志諸君、ならびに市民の皆さん、
仕事を止めるな！労働者の諸君、機械の前から離れるな！水兵、兵士の諸君は、君達の持場に、部署に、要塞にとどまってくれ！すなわち、各労働者、各ソヴィエト制度に属している者達は、仕事を続けねばならない。

臨時革命委員会は、すべての労働者組織、すべての水兵及び労働組合、すべての軍事部隊、そして一般市民に、支援とカンパを呼びかける。

臨時革命委員会は、新しいソヴィエトの公明正大な選挙制を編成確立する為に、諸君の警戒心と団結を必要としている。

そのために同志よ！真の秩序と平和の為に団結を！
新しい社会主義体制の為に団結を！
すべての働く者たちの為に団結を！

一九二一年三月二日 クロンシュタット

巡洋艦ベトロバウロフスク

CRP委員長 ペトリチェンコ

同・書記 トウルキンヌ

一九二一年三月一日、第一及び第二分艦隊総会決議

ベトログラードへ報道の任務として、水兵総会から派遣された乗組員の代表者の報告を聞いた後で、次のような決定が下された。
(一) 現在のソヴィエト体制が農民、労働者の意志を表わしていないことを考えみて、直ちに無記名投票の再選挙に取りかかるべきことは必須である。自由選挙運動は、多くの労働者、農民が公明正大に通知される為に今後、広く繰り上げなければならない。

(二) 労働者、農民、アナキスト及び左翼社会主義者の為に言論・報道の自由を！

(三) 労働組合、労働組織団結の為に自由を！

(四) 遅くとも一九二一年、三月十日までに、労働者、赤軍兵士及びクロンシュタット、そしてベトログラードの水兵たちによる総会の招集を！

(五) 現在、政治犯として捕れている、すべての社会主義者、並びに種々な民衆運動に関連して逮捕された、すべての労働者、農

民、赤軍兵士及び水兵の無条件釈放を

(六) 牢獄、強制収容所に監禁、拘束されているすべての者に対し、公正な立場に立つて調査を担当する委員の選出を

(七) すべての政治的所管の廃止すなわち、今後いかなる党も思想的プロバガンダのために、どんなささいな政府(国家)の助成金を受けてはならない。その代り、われわれは、あらゆる市で国家から融資された、文化及び教育委員が選出されることを提案する。

(八) すべての軍隊による封鎖の即時廃止を

(九) 特に苦役な職務に従事している者は別として、すべての働く者に対して、食糧分配(配給)の平等化を

(十) 軍隊の各部内に於ける、共産党の戦闘部隊並びに、工場、鉱山に於ける共産党衛兵の廃止を、もしこのような部隊が必要な時は、兵士によって、又衛兵が必要な時は、労働者自身によって任命されること。

(十一) 農民に関して、自分自身で働き、賃金労働者に頼らないという条件の下で、彼等農民への土地の私有化と絶対的権利を、そして家畜を飼育する権利を与えること。

(十二) われわれは、すべての軍事部隊並びにクルサンティ(陸海軍士官候補生)同志たちに、われわれの決議に参加するよう呼びかける。

(十三) われわれは、この決議文が広く出版物によって伝播されることを要求する。

(十四) 移動する管理委員会を設置すること。

(十五) われわれは、自立したい労働者の為に、自宅での仕事の自

由を要求する。

本決議は棄権二を除いて満場一致で第一、第二分艦隊の総会によって採択されたものである。

大会議長 ペトリチェンコ

書記 ベレベルキン

本決議はクロンシュタットの駐屯部隊の殆んど全員の兵士によって採択された。

会長 ワシリエフ

三月二日、午後九時、要塞の大多数の人民及び皆のすべての赤軍部隊は、臨時革命委員会と結束し、そして、すべての指令と連絡業務は、委員会の巡視隊によっておこなわれた。臨時革命委員会に、オラニエバウムの部隊の支援をもって、オラニエバウムから代表者がやって来た。ペトログラードでは、蜂起がゆき渡っていった。臨時革命委員会は、同志(イリイネエ)に人民の食糧補給を組織することを委任した。今日は二日分、すなわち三月三日と四日分のパンの配給がなされた。

オラニエバウムの航空師団は、臨時革命委員会に同意して、現在代表者を派遣している。われわれの決議は、ペーターホッフへ送られた。われわれは回答を待っている。若の人民委員ノヴィコスは、フィンランド国境に向けて馬を進めていたが、トテレベンの要塞に拘置された。

一九二一年 三月四日 金曜日

クロンシュタット革命委員会の規約

一九二一年三月三日 巡洋艦「ベトロバヴロフスク」

(一) クロンシュタット市の革命委員会は、市及び皆のすべての機関に例外なく、委員会の決議を遂行することを命ずる。規約は労働者が、彼等の持場にとどまり、仕事を続けるよう責任を託されている。

(二) クロンシュタット市の臨時革命委員会は、たとえ誰であろうとも、市を放棄することを禁ずる。やむを得ない場合は、市の指揮官に願ひ出ること。委員会、同じくクロンシュタットの海軍司令部のスタッフに、新たな賜暇を交付することを禁ずる。

(三) 臨時革命委員会は、特別な許可なくして市でのすべての搜索を禁じ、又搜索令状はORPの議長と書記の署名、並びにベトロバヴロフスクの印によつて、それらが偽りでない場合に限り交付される。

機関、組織及び党の記録の中から何物をも取り出したり破壊しないで、すべてをその総体の中に人民の遺産として保管しておくことを、規約は委されている。

(四) 市がさしかかっている非常事態のため、クロンシュタットのORPは、午後十一時以後、市でのすべての移動をORPによつて交付された特別な許可なくしては、移動できないことを市長、水兵及び赤軍兵士に通告する。

ORP議長 ベトリチェンコ

臨時革命委員会は、逮捕された共産主義者が暴力を受けたなどという中傷を、どんなことがあつても否定する。彼等はそれどころか、完全に安全な状態で保護されており、逮捕された幾人かは、すでに釈放されている。

われわれは共産党の代表者が、逮捕の理由について調査する委員会のメンバーに加わることを要請する。すでに共産党同志イリヌ、カバーフ、ベウチヌたちは、革命委員会へ出向いており、巡洋艦ベトロバヴロフスクに拘置されている同志に、面会することを許可された。

確認のため、彼等同志の署名をここに記す。イリヌ、カバーフ、ベウチヌ。原本と相違なきことを証す。署名、ORPメンバー・アルシポフ、書記・P・ヴォグダアーフ

共産主義者自身が、社会生活を再編成する必要性を認めていることは、注目すべき事実である。彼等は同じく、国家権力は武力によつてではなく、働く者たちの腕で戦い取らなければならぬと認めている。共産党細胞の臨時事務所から配布されている下記の請願書は、これらのことを証明している。

ORP議長 ベトリチェンコ

ロシア共産党クロンシュタット細胞の臨時事務局声明文
ソウイエトのすべての部門（工業・経済・行政部門・駐屯地の軍事部隊）で働く共産主義の同志諸君、ロシア共産党の臨時事務所は、永久にそして強く諸君に差向けられている。われわれがさ

しかかっている、この困難な時期は、われわれの役割を要求している。すなわち、注意、警戒心、そして特別な心遣いを。

我党は、数年来擁護してきている労働者階級を、決して裏切らなかつた。労働者階級の利益のために過去の諸事件の歴史的展開は、どんな口実のもとにでも、われわれの持場を放棄しないことと、日々の仕事を休みなく続けることを、すべてに義務づけてきた。そして労働者の緩慢化やサボタージュは、結果的に労働階級の生活条件の低下をもたらすはずであることを、決して忘れなかつた。

我党の同志各自は、われわれがさしかかっている時期の重大さを考慮する必要がある。すなわち、共産主義の指導者が銃殺されたという誹謗は、流血の惨事を引き起こそうと計っている悪意ある分子たちによつてまき散らされた、ばかばかしい噂であり、いかなる信頼も同調もすることができない、ということである。そしてこの同じ噂は、共産主義者がクロンシュタットで武装蜂起を準備したと断言している。このことは、ソヴィエトの危機のみを望んでいる共謀国の代理人によつて流布された毒々しい作り事である。われわれは、我党が今まで努力してきたように、ソヴィエトの労働者及び農民の権力を打ち砕くことのみを唯一の目的とする表面に表われた、あるいはそうでない敵対者に対して、労働者階級の真なる征服を遂行するために、手に武器を持つて守りぬくことを、ここに高らかに宣言する。

ロシア共産党クロンシュタットの臨時事務局は、ソヴィエトの再選挙を必要と考へ、共産党のメンバーにそれに参加するよう要請する。

さらに臨時事務局は、すべての共産党のメンバーに彼等の持場にとどまることと、臨時革命委員会の決議の議事妨害をしないことを要請する。

冷静、規律、団結こそ共謀国側の策謀を打ち破り、そして全世界の労働者、農民の勝利への道に欠くべからざる条件である。

ソヴィエト権力万才！

働く者の世界連合万才！

ロシア共産党クロンシュタット細胞の臨時事務局

イリイヌ、カバノフ、ペウチイヌ

クロンシュタット市の人民へ

市民の皆さん！

クロンシュタットは今後、自由のために厳しい闘いに突入するであろう。すなわち、クロンシュタット市を占領したこと、飢え、寒さ、そして経済的崩壊にわれわれを導いた共産主義者たち、その彼等が再びわれわれを服従させようと望んでいることは、いいかえれば、いつ彼等が攻撃をしかけてくるかということであり、われわれは、絶えずそのことについて注意していなければならぬ、ということである。

皆さん！われわれは、最後まで勝ち取った自由を守りぬくことを、ここに宣言する。しかし彼等がクロンシュタットを、このままの状態で占領する事を許さないことは、火を見るより明らかなことである。が、万一彼等が武力で自由の砦を奪い取ろうとするならば、われわれは、最後まで徹底的に反撃するのみである。

しかるに、臨時革命委員会は、市民の皆さんに、たとえ銃撃戦

になろうとも、我を忘れて恐怖に走らないよう要請する。

確信、冷静、そして正しい情況判断のみが、われわれに勝利をもたらすであろう。

臨時革命委員会

モスクワからの無線電報

われわれは、ペトロヴロフスク局でキャッチされた、モスクワの『ロスタ』支局からの無電を下記に転載する。その中には共産党、自称ソヴィエト政府によつて発言された、恥知らずな中傷や虚言が満載されていた。

この無電の何ページかは、他局との混線のために判読されることが出来なかつた。しかし、この(空白の)言葉は、如何なる注釈をも要しないであろう。なぜならば、クロンシュタットの労働者は、それらを正しい意味に推測することを知っているからである。

以下その電文

全ての人民へ、全ての人民へ……

モスクワ電報局、『ロスタ』発 三月三日

反共産主義衛兵どもの陰謀と闘おう

元将軍コロロウスキーや巡洋艦ペトロヴロフスクの暴動は、

反共産主義衛兵(白色主義衛兵)の過去の数多くの暴動と同じく、まったく共謀国側の代理人どもの仕業であると、フランスのブルジョア新聞『ル・マタン』紙はそのことを報じている。コロロウスキーの叛乱の二週間前、この新聞の最新版は、次の電文をヘルシンキから公表した。

「ペトログラード(の報ずるところ)によると、先頃のクロンシュタットの蜂起に引続き、ボルシェヴィキ軍部当局は、クロンシュタットを孤立化するためと、クロンシュタットの駐屯部隊の水兵及び赤軍兵士に、ペトログラードへの入港を禁ずるため、一連の規制をしいた。そしてこの街の食糧の貯えは、次の禁止令まで残存されている。

クロンシュタットの蜂起は、パリから指図されているところのことは明らかであり、それはフランス反革命主義者の仕業である、かくして歴史は繰り返されている。パリから(指図されている)社会主義革命家は、ソヴィエト政権に対し蜂起を企てたが、彼等が行動を起す前に、彼等の背後でツァーリスト將軍の仮面をかぶつた、真の指導者を暴露した。社会主義革命と共に権力の座を奪い取るうとたくらんだコルチャック提督の例は、一度ならずも繰り返された。

ツァーリスト將軍から社会主義革命家たちまで、彼等は勤勉な大衆を苦しめ、飢えや寒さに乗じて、彼等の利を図ろうとしている。しかし、ツァーリスト、社会主義革命家たちの蜂起は、痛ましくも鎮圧されるであろうことは、疑う余地がない。つまりコロロウスキー將軍とその一味は、コルチャック提督がたどつた運命を知るといふことである。

しかし、共謀国側の代理人が反革命的な陰謀を張りめぐらしているのは、クロンシュタットだけではない。労働者及び兵士の諸君、この陰謀を打ち破りたまえ、諸君の冷静さと確信を守りたまえ、諸君の団結を保ち、そして警戒心を持ち続けたまえ、われわれの力強い団結によつてのみ、食糧、燃料補給の一時的難関から

抜け出せないということをさとりたまえ／＼

クロンシュタット等の地で起っている峰起は実に馬鹿げた行為であり、これらが現在、人命的な問題となっている飢餓を、一層ひどくしていることはいうまでもない。

われわれは力強く訴える。労働者階級の敵どもの策略的陰謀を容易にするな。

イズヴェスチャ 三号

一九二一年 三月五日 土曜日

通告

臨時革命委員会は、巡洋艦ベトロバヴロフスクを離れ、レーニン通り三九番地の人民本部四階へ移った。今後一切の接触は、ここで引受けられる。

無能者どもの狂気

三日前、クロンシュタットは、共産主義者の呪わしい権力を打ち破った。四年前、ツァーとその將軍の一派どもの権力を打ち破ったように。

ここ三日以来、クロンシュタットの市民は、党の独裁政治から解放され、自由に満ちている。クロンシュタットの共産主義指導者は、見苦しくも逃げ出した。彼等は、我が身の危険を恐れ、彼等は、ORPが「チェカ」のお気に入りの方「暗殺」を用いると思つたからだ。

むだな懸念／＼

臨時革命委員会は、復讐も報復もしない。クロンシュタットの、

すべての共産主義者は自由であり、誰も、彼等を脅かしなどしない。ただ、われわれのバトロール隊によつて、逃亡し捕えられた兵士は拘留されている。「赤の恐怖」を忘れなかつた民衆の憤りから、われわれは彼等を救つた。すべての市民がそうであるように、共産主義者の家族は不可侵である。

彼等の飛行機の一機が昨日、われわれにピラをまいていった。それは、クロンシュタットの事件とはまったくかわりのないことで、多くの人民がベトログラードで逮捕されたと伝え、そればかりではなく、彼等の家族も投獄されていると伝えていた。ピラには次のように述べられていた。

「これらすべての捕虜は、叛徒どもによつて拘留されている同志(クロンシュタット・人民委員長等)を釈放するまで、人質として監視されることを、防衛委員会は申し渡す。また、同志の髪一本たりとも触れるな／＼さもないと人質の命はないものと思え／＼」
以上が防衛委員会の結論であつた。まさに無能者どもの狂気／＼罪なき家族の拷問、この行為は彼等に新たな光栄なぞ加えはしない。とにかく、この方法ではクロンシュタットの労働者、水兵及び赤軍兵士によつて奪われた権力を、再び取り戻せないであろう。

打ち破るか死ぬか／＼

代表者の集会

昨日、三月四日午後六時、駐屯部隊のクラブにおいて、軍部及び労働組合の代表者の会合が行なわれた。

議事日程

○ORPの補助メンバーの選出

。進行中の事件に関する報告の審問

出席者

二〇二代表委員は彼等のうち殆んどが、職場からそのままの状態であつて来た。

水兵ベトリチェンコは本会の議長、彼は臨時革命委員会が過度な任務を委任されているので、メンバーの増員が必要であると述べた。すなわち現在の五名の選出者に、さらに少なくとも十名以上の増員を提案した。

二〇名の候補者のうちから、次の同志たちが圧倒的多数をもつて選出された。

オスソソフ (セヴァストポル・機関兵)

ベレベルキン (セヴァストポル・職工)

パトルシエフ (ペトロバヴロフスク・職工監督)

クローポフ (高等看護卒)

ヴェルシニン (セヴァストポル・水兵)

ロマネンコ (格納庫番人)

ヴァルク (木挽工)

バヴロフ (海軍水雷敷設夫)

バイコフ (荷馬車夫)

キルガスト (潜水夫)

それから総会は、会の議長ベトリチェンコからCRPの活動並びに、当日の選挙についての報告を聞いた。同志ベトリチェンコは、要塞の駐屯部隊及び船舶乗組員たちが、戦闘の準備をしていると強張り、彼は、労働者、赤軍兵士及び水兵たちをわきたたせる、力強い感激を示した。

それから生活必需品及び燃料供給問題、そして労働者の武装問題等々が取り上げられた。「打ち破るか死すか」気声を上げて、熱狂のうちに、例外なくすべての労働者たちは、武装して市内を巡視する任務につくことが決定した。(なぜならば赤軍兵士及び水兵たちは、戦闘部隊の構成にあつて、彼等労働者たちにも任務をあたえることを切望したからである。又、三日以内にすべての組合の指導者、並びに彼等を統治するところのソヴィエト政府を再選することを決定した。尚、ソヴィエト政府は今後永久にCRPと接触を保つてあろう。

ついで、身の危険を冒してペトログラード、ステレルナ、ペテルホフ、オラニエンバウム等の地から逃れてきた、水兵の同志たちによつて情報が報告された。彼等の報告によると、共産主義者は、人民にクロンシュタットの事件をまったく知らせず、そしていたるところで、彼等はクロンシュタットは白軍(白色反革命軍)のごろつきと、將軍どもの手中にあるという噂を流布させているということであつた。

この報告は、聴衆の一同をどつと笑わせた。それは、先にクロンシュタットの上空でばらまかれた「共産主義者マニフェスト」を読んだ時と同じくらい彼等を有頂点にさせ、なかには叫び声を上げる者さえもいた。

「共産主義者マニフェスト」の文面。

われわれは、ここにたつた一人の將軍、すなわち海軍の人民委員しか持たない。しかし、その將軍が現在投獄されているのだ。総会は「打ち破るか死すか」断固、かつ必須な決議を明示しながら、一連の敬礼、誓願、熱狂的なマニフェスタションで幕を

閉じた。

クロンシュタット駐屯部隊に敬礼

巡洋艦ベトロバヴロフスクの無線電信は、レヴァルから発せられた次の電文を受けとった。

「侵略者の権力を打ち破った光榮ある、クロンシュタットの革命的駐屯部隊に敬礼」

ジノヴィエフがクラスナイヤ・ゴルカ要塞へ

ジノヴィエフは、急行列車でオラニエンバウムへやってきた。

そして地方の駐屯部隊にみなぎつてゐる動搖を和げるために、クラスナイヤ・ゴルカ要塞へ赴いた。しかし彼等（駐屯部隊）の会合、ピラのなかに於いて、クロンシュタットへの全面的な支持を表明した。

オラニエンバウムでの鉄道業務の停止

ベトログラード防衛委員会の指令により、オラニエンバウムでの鉄道業務が停止された。それは、例外的な場合、もしくは防衛委員会の特別な許可がない限り、再開されないであろう。チェキスト（全ロシア非常委員）及びカデイト、がすべての駅を占領している。

バルチック艦隊提督の逮捕

トテルベン要塞を通過しようとしたバルチック艦隊提督は、他の共産主義者と共にバトロール隊によつて逮捕され、クロンシュタットへ連行された。

共産主義者に

数多くの労働者がソストロルズカの軍需工場で逮捕され、市内では、痛々しい場面が展開されていった。拘留された人々の伴侶や子供たちは、涙を流しながら彼等の夫や父親の釈放を請願して市街地を徘徊している。

ベトログラードで

すべての工場で集会が開かれ、それらの場でクロンシュタットの事件に関する論議がなされているという報告が、ベトログラードからあつた。

労働者たちは、クロンシュタットの革命者に対し好意的であり、あらゆる方法、手段をもつて、われわれと手を結ぼうとしている。

共産主義者たちは、労働者、赤軍兵士及び水兵等の家へスパイを送つて、彼等からその事（われわれと手を結ぶ）を阻止しようとたくらんでいる。

乗組員に、彼等の船舶から離れることを禁ずる。なぜならば、共産主義者の警戒は非常に恐しい。

結集は共産主義者の派遣部隊によつて、散会させられてしまつた。

パンの配給量は、減少させられてしまつた。そのことは、二日分としてはもはや三分の四ポンドしかない。

ベトログラードからの最後のニュース

最も大きい煉瓦工場が、ストライキに突入した。バルチック工場の労働者は、仕事を再開することを拒否した。

共産主義者とカデットの戦闘部隊は、巡洋艦ガゲウト、ポルタヴァの前で警戒している。クロンシュタットへ行くため、オラニ

エンバウムを通過しようとした幾人かの水兵は逮捕された。

上陸しているすべての水兵は、各自の船舶へ戻るよう指令が発せられた。

市内で

クロンシュタットでは、ORPが市の管理を任されて以来、秩序は乱れなかった。すべての機関は、いかなる時も中断されないでその職務を順当に果している。ここ三日続いて街は活気を呈し、どのような砲撃も撃たれなかった。

彼等は党を放棄する

臨時革命委員会は、次の数通の書簡を受け取った。

「共産主義者の策謀は、わが国を出口のない袋小路に追いこんでしまった。党はますますもって官僚的になり、民衆のあらゆる熱望をまったくもって知ろうとしない。党の意志を民衆に押しつけることばかり考えていて、どのようにして人民大衆の声を聞き入れようとするのか？（一億一千五百万人の農民のことを考える）もし労働大衆の奮起を望むのなら、まず選挙制を改革し、大衆が広く国家の再建に参加できるよう、言論の自由を打ち建てる必要がある。」

本日をもって、私は共産党から離党し、三月一日の全人民の集会で採択された決議に無条件に同意、賛成し、よって私は、臨時革命委員会の規約に全面的に従うことをここに誓う。また、この書簡が地方紙を通じて発表されることを要求する。

一九三三年裁判によって追放された政治犯人の子

赤軍将校ヘルマン・カーネフ

「たとえ革命的であっても、テロによる恐怖は認めるわけにはいかない。それ故に私は、ロシア共産党のモスクワ支部に対する爆撃侵略に参加したことを、中央行政委員会のイズヴェスチャのメンバーによって告発されたボルシェヴィキ社会革命党を一九一九年末に離党した。同じく、このイズヴェスチャによって、ボルシェヴィキが南部で支部責任者の暗殺を伴う土地の強制徴収に着手したことが告発された。」

私は最近信頼できる筋から、政府共産党はマキャベリ的な方策をあみだし、公然と前面から攻撃はせずに、彼等の敵対者に対してあらゆるカムフラージュされた術策を用いて人望を失わせ、ついに絶滅させるという一連のずるがしこい方策を聞いた。また、法廷はボルシェヴィキに対して無罪を宣言する責務があると認め、また共産党に洗脳された新聞は、そのことに対して一言の反論も記載しなかった。

こういう理由をもって、私を共産党の一員であるとみなさないでほしいことを、諸君に要求する。そして私は、真のボルシェヴィキ社会革命連合に復帰することを宣言する。

全ての権力は党にはなく、ソヴィエト人民へ！

一九二一年、三月四日

A・ラマノフ

「私（第四砲兵師団の赤軍兵士）は、誤って共産党に好意を寄せてしまった。が、しかし今の私の目は開かれ、臨時革命委員会とともに未来のロシア建設のために、人民大衆と共に手を結び進むことを誓います。」

一九二一年、三月四日

ドナト・スイメン・ヴァグ